

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 25 日現在

機関番号：43911

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530614

研究課題名（和文）母親の社会的情動発達プログラムの開発  
 ー情動認知と応答行動の発達過程ー

研究課題名（英文）Development of the social emotion development program of mother  
 -Development process of the emotion recognition and the behavioral response-

研究代表者

小原 倫子（OBARA TOMOKO）

岡崎女子短期大学・幼児教育学科・准教授

研究者番号：10450032

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、言語によるコミュニケーション手段が未熟な乳児と母親の関係性の発達に影響を及ぼすことが考えられる、母親の情動認知と文脈利用の発達の変化を、発達早期からの短期間、反復的なマイクロの視点による研究デザインで詳細な検証を行うことである。その結果、母親は乳児の表情や行動、発声といった子どもに焦点化された情報だけでなく、遊んでいる対象や、母親の内的表象（育児態度や育児信念）も利用して情動を認知している可能性が示唆された。また、育児経験が重なるにつれ、幅広い文脈の利用が可能となる母親と、ある一定の文脈への焦点化が固定化される母親という発達の異なるパターンが示された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the present study was to investigate changes in the perception of mothers toward infant emotions and use of context, as such changes are considered important for the development of relationship between mother and child. Our results suggested that mothers perceive infant emotion not only on the basis of information obtained by focusing on the child, such as facial, behavioral, and vocal expressions, but also by observing context, such as an object being handled by the child, and the mother's internal attitude and beliefs regarding child rearing. Moreover, we noted different patterns of developmental changes between mothers who became competent in making use of a broader context when acquiring more experience in child rearing, and those who remained entrenched and focused on a certain context.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：親子関係、社会的情動発達、情動認知、応答行動、日常的な文脈

**科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書**

## 1. 研究開始当初の背景

従来の母親の心理的発達における知見は、母親になることによる主観的意識や自己従来の母親の心理的発達における知見は、母親になることによる主観的意識や自己概念の変化、育児に対する態度や意味づけの変化を明らかにしている（柏木&若松,1994；徳田,2004）。これらの研究は、生涯発達の視点から、母親の主観的意識としての態度や意味づけの変化に焦点があてられており、子どもとの相互交渉の中で生起される母親の変化そのものの検証は十分ではない。

Emde&Sorce(1988)は、特定の情動に関する明確な仕種がない新生児に対しても、日常的文脈を基にして乳児の情動を読み取る母親の応答性は、母子の共感的過程に貢献すると述べている。母親が子どもとの相互作用の中で子どもの情動をどう認知し、どのように解釈するかという認知的能力は、その後の子どもへの応答行動に大きな影響を及ぼすことが予想される。しかしながら、これまでに日常的文脈における母親の情動認知と応答行動の発達に関する研究はほとんど見られない。発達初期の不確かな情動表出を示す乳児の情動を、母親がどう認知し、その後の応答行動をどのように行っていくかについて明らかにすることは、安定した母子関係のための重要な要因である。また、母親の応答行動が、子どもの発達に影響を及ぼす

(Hsu&Fogel) という報告がある。子どもの発達への影響という視点からも、母親の情動認知と応答行動の発達プロセスの検証は必要である。小原 (2005a, 小原,2005b, 小原

2006) によれば、母親による子どもの情動認知と応答行動の特徴は次のようである。①養育体験を重ねることにより、ネガティブな情動を含むより幅広い情動認知へと発達する。②母親の情動認知の幅広さと養育行動の繊細さは関連している。

このような結果から、母親の情動認知と応答行動は、関連しながら母子相互作用という日常的文脈の中で変化していくことが予想される。しかしながら、これらの調査では、乳幼児の写真刺激を用いて母親の情動認知の把握を行っている。日常の相互交渉場面に即した調査による検証が必要である。また、発達の变化が著しい乳児から幼児期にかけて、母親の情動認知と応答行動がどのように変化し、関連しているのかについても明らかになっていない。更に虐待や発達障害等といった異なる養育環境や発達程度の差異による母親の情動認知と応答行動の発達パターンの違いについてはほとんど明らかになっていない。以上の課題について妥当性のある調査方法の開発も含め体系的な調査計画に基づく、厳密な検証が必要であると考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、母子相互作用における母親による子どもの情動認知と応答行動の発達プロセスを明らかにすることである。そのために、母親による子どもの情動認知を測定することが可能な統制され、かつ日常的文脈に根差した乳児のビデオ刺激を開発し、情動認知と養育行動が形成されていく発達のプロセスを、発達早期からの短期間、反復的なマイクロ的視点による研究デザインで詳細な検証を行う。

### 3. 研究の方法

**【研究項目(1)】** 母親による子どもの情動認知を測定することが可能な、統制され、かつ日常的文脈に根ざした測定ツールの（乳児のビデオクリップ）開発。

**協力者**：子育て中の母親 127 名（3 ヶ月：29 名、6 ヶ月：25 名、9 ヶ月：34 名、12 ヶ月：39 名）

**ビデオクリップの作成**：3、6、9、12 ヶ月の乳児を各 4～5 名撮影し、Positive、Negative、Neutral な情動表出の場面を抜き出し、15 秒のクリップを各月齢で 20 作成。対象者による各クリップの快～不快評定から、快から不快まで幅広い情動が含まれているよう配慮して 最終的に各月齢 5 クリップを刺激として選択した。

**【研究項目(2)】** 母親による子どもの情動認知と養育行動の発達プロセスの特徴を詳細に検証し、発達モデルを構築するために、縦断的なマイクロ分析を実施した。

#### **半構造化面接（予備調査）**

**協力者**：0～1 歳児を子育て中の母親 31 名

**手続き**：日常的文脈に根ざした乳児のビデオ刺激を使用して以下の項目についてインタビューを行った。

- ①（乳児の情緒を尋ねる質問）「赤ちゃんはどのような感情状態だと思いますか？」
  - ②（情緒の読み取りに母親が用いる手がかりを尋ねる質問）「そのような感情状態と思われたのは、どのようなところからですか」
- 質問①②の回答を、KJ 法により、評定者 3 名で合意が得られるまで類型化を行い 28 個の情動カテゴリーと 7 個の情動認知の際に利用する手がかりカテゴリーが得られた。

#### **半構造化面接（本調査）**

**協力者**：3 か月児を子育て中の母親 27 名

**手続き**：3 か月の乳児を育児中の母親 27 名を

対象に、子どもが 3 ヶ月、6 ヶ月、9 ヶ月、12 カ月の各時点において、3、6、9、12 ヶ月の乳児のビデオ刺激（15 秒）を各 5 枚（計 20 枚）提示し、以下の項目について日常的文脈に根ざした乳児のビデオ刺激を使用して以下の項目についてインタビューを行った。

- ①（乳児の情緒を尋ねる質問）「赤ちゃんはどのような感情状態だと思いますか？」
  - ②（情緒の読み取りに母親が用いる手がかりを尋ねる質問）「そのような感情状態と思われたのはどのようなところからですか」
- さらに、実際の母親-乳幼児相互作用を 3 ヶ月、6 ヶ月、9 ヶ月、12 カ月の各時点において VTR 撮影し、ビデオ刺激に対する情動認知と実際の母親-乳幼児相互作用の関連についても検証を行った。これまでの研究結果から、母親は乳児の表情や行動、発声といった子どもに焦点化された情報だけでなく、遊んでいる対象や、母親の内的表象（育児態度や育児信念）も利用して情動を認知している可能性が示唆された。また、育児経験が重なるにつれ、幅広い文脈の利用が可能となる母親と、ある一定の文脈への焦点化が固定化される母親という発達的变化の異なるパターンが示された。

**【研究項目(3)】** 健常群とリスク群の母親による子どもの情動認知と養育行動の発達プロセスの特徴の差異の出現時期を明らかにするために、それぞれの群の発達プロセスについてマクロ的視点での分析を行い。発達プロセスの比較検証を実施した。

#### **半構造化面接（本調査）**

**協力者**：3 か月児を子育て中の母親健常群 27 名、虐待リスクを持つ母親群 3 名、子どもが発達障害を持つ母親群 7 名

**手続き**：ビデオ刺激を用いて、母親の情動認知と応答行動のために利用する文脈につい

て虐待リスクをもつ母親、発達リスクを持つ子どもの母親を対象に横断調査を実施した。また、作成した既存のカテゴリーを用いて、発達プロセスの個人内、個人間の変化について検証を行った。更に、健常群との比較検証も行っている。この過程については、現在分析、精査中である。

#### 4. 研究成果

**【研究項目(1)】** 母親の情動認知を測定するためのツールとして、乳児の様々な日常生活場面を素材としたVTR刺激を作成し、測定ツールとしての妥当性を検証した。また、その過程を論文として公刊した。

**【研究項目(2)】** VTR刺激を用いて、生後1年間の4時点において母親の情動認知と認知のために利用する文脈について横断調査を実施した。その結果を基に、28個の情動カテゴリーと7個の情動認知の際に利用される手がかりカテゴリーを作成した。これらのカテゴリーの内容から、母親は、乳児の表情や行動、発声といった子どもに焦点化された情報だけでなく、遊んでいる対象や、母親の内的表象（育児態度や育児信念）も利用して情動を認知している可能性が示唆された。この過程については国内外の学会で発表を行い加筆修正した内容での論文を準備中である。

VTR刺激を用いて、生後1年間の4時点において母親の情動認知と認知のために利用する文脈について縦断調査を実施した。また、作成したカテゴリーを用いて発達プロセスの個人内、個人間の変化について分析を行った。その結果、育児経験が重なるにつれ、幅広い文脈の利用が可能となる母親と、ある一定の文脈への焦点化が固定化される母親と

いう発達的变化の異なるパターンが示された。本研究の結果を基に、母親のビデオ刺激に対する情動認知の特徴と実際の母親-乳児相互作用の特徴を比較検証し、その関連について考察を行うことで、ビデオ刺激を用いた母親の情動認知の臨床的有用性について考察する。この過程については国内外の学会で発表を行い加筆修正した内容での論文を準備中である。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計4件)

- ① 島 義弘, 上嶋菜摘, 小林邦江, 小原倫子. 母子相互作用において母親が使用する情報：内的作業モデルの影響 発達心理学研究, 2012(印刷中). (査読有)  
(査読あり)
- ② 上嶋菜摘, 島 義弘, 小林邦江, 小原倫子. 乳児とのかかわりにおける母親の主観性—乳児の発達との関連—乳幼児医学・心理学研究, 20, 29-38, 2011. (査読有)
- ③ 上嶋菜摘, 小原倫子, 母親が乳児に対する“かかわり”において着目できる手がかり、乳幼児医学・心理学研究、第19巻、pp49-60、2010年、査読有
- ④ 島義弘、小原倫子、小林邦江、上嶋菜摘 乳児の情動状態の読み取りに関する研究—VTR刺激の作成—、名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（心理発達科学）、第56巻、pp83-89、2010年、査読有

[学会発表] (計20件)

- ① 杉村和美、小原倫子、松本学、遠藤利彦 発達における変化プロセスの検討、日本発達心理学会第22回大会自主ラウンドテーブル、2011

- ② 小原倫子、小林邦江、上嶋菜摘、島義弘、乳幼児を育てる母親の情動認知と情動的関与（7）－情動認知と養育者-乳幼児相互作用の発達の関連の検証－、日本発達心理学会第22回大会、2011
- ③ 小原倫子、小林邦江、上嶋菜摘、島義弘  
Developmental Changes in Mother's Perception of Infant Emotion and Use of Context. XVIIth Biennial International Conference on Infant Studies、Maryland、Baltimore、2010  
Poster Presentation

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小原 倫子 (OBARA TOMOKO)

岡崎女子大学・幼児教育学科・准教授

研究者番号：10450032